

対応認定科目	フィールドワークに基づく地域調査実習に関する科目 地域調査に関する演習 (修士論文指導及び修士論文)			
大学・大学院名	〇〇大学大学院			
開設研究科名	〇〇研究科 〇〇学専攻			
授業科目名	〇〇演習			
単位数	半期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・集中・その他 (4 単位)			
授業方式	講義/実験・実習/ <input checked="" type="checkbox"/> 演習			
申請科目年度	2013 年度			
過去科目年度	<input checked="" type="checkbox"/> あり (2003 年度～2012 年度) / なし			
担当教員 (複数の場合は代表者)	担当形式	専任/非常勤	資格	氏名
	<input checked="" type="checkbox"/> 単独・複数	<input checked="" type="checkbox"/> 教授・准教授・専任講師・助教・非常勤講師	<input checked="" type="checkbox"/> 専門地域調査士/地域調査士	(ふりがな) 〇〇 〇〇 ----- 〇〇 〇〇
担当教員 (担当教員全員の氏名を記入)				印
研究科長・専攻長等 (科目内容について責任を負える者)		教授・准教授・ 専任講師	専門地域調査士/地域調査士	(ふりがな) ----- 印

(申請書 1)

授業内容説明書の記入にあたって

次項の説明文を記入するにあたっては、授業内容の概要にとどまらず、授業内容と以下の①および②とが合致しているかという観点で具体的にご記入ください。また、授業のシラバスだけでは授業内容の説明が不足する場合、この説明書に具体的な授業内容を詳細に記入してください。

①地域調査士認定規程第2条第3項によれば、「**専門地域調査士**」とは、地域調査に関して特に高度な知識及び実務能力を有するものであって公益社団法人日本地理学会が地域調査士認定規程に基づいて認定した者をいいます。

②地域調査士認定規程第2条によれば、「**地域調査**」とは、地域の特性の科学的な調査、分析、究明、解説、広報等を行う業務（報告書の作成その他これらの業務に付帯する業務を含む。）をいいます。また、地域調査士認定規程細則第1条には地域調査において留意する事項として以下の点があげられています。こうした点を授業内容と照らし合わせ、いかに合致するかという観点でご記入ください。その他、資格専門委員会のホームページには、地域調査士に関する規程類が掲載されていますので、規程類をご理解の上、説明書にご記入ください。

地域調査士認定規程細則 第1条

- (1) 調査は、常に科学的な意図と手続きをもって企画・実施すること。
- (2) 調査を実施する国・地域の法令、慣習を順守すること。
- (3) 調査の趣旨を十分に説明し、関係者の理解を得た上で実施すること。
- (4) 個人情報の保護に努めるとともに、人権・プライバシーを最大限尊重すること。
- (5) 地域住民の生活や関係機関の業務をむやみに妨害しないこと。
- (6) 誤解を受ける言動をとることのないよう努めること。
- (7) 学会などの組織としての見解と個人の見解とを峻別すること。

授業内容説明書（前項の授業内容説明書の記入にあたってをよく読んで記入してください）

1 授業のねらいと到達目標

修士論文作成に関わる研究計画・調査・分析・論文執筆を通して、専門分野の研究課題に関する理解を深めるとともに、研究成果の学術的発信や社会への応用に必要な能力を養うことを目標とする。修士論文の作成に向けて、自然地理学や関連分野の研究課題を整理しつつ、調査・分析や論文作成に関する方法を学ぶ。室内調査と野外調査の双方を行うが、データの収集と客観的分析、論文の執筆と発表の指導に重点をおき、修士論文を完成させる。

2 授業内容（具体的な授業回数とともに授業内容を書いてください）

前期

- 第1回 授業の概要と進め方
- 第2回 自然地理学の研究分野
- 第3回 最新の研究動向（1）国内
- 第4回 最新の研究動向（2）海外
- 第5回 研究テーマの位置づけと研究目的の再吟味
- 第6回 1年次の研究成果の再検討（1）地域
- 第7回 1年次の研究成果の再検討（2）方法と結果
- 第8回 1年次の研究成果の再検討（3）考察
- 第9回 地図や統計を用いた対象地域の再分析
- 第10回 リモートセンシングによる地域の再分析
- 第11回 調査計画の再検討（1）調査対象
- 第12回 調査計画の再検討（2）調査地域
- 第13回 調査計画の再検討（3）調査方法
- 第14回 調査計画の再検討（4）分析方法
- 第15回 調査計画の総合調整と調査許可

後期

- 第1回 データの収集と管理（1）地域の基礎データ
- 第2回 データの収集と管理（2）測量データ
- 第3回 データの収集と管理（3）計測データ
- 第4回 データの収集と管理（4）定性的データ
- 第5回 データ分析（1）地図化とGIS分析
- 第6回 データ分析（2）データの加工と図化
- 第7回 データ分析（3）統計分析
- 第8回 分析結果の考察
- 第9回 考察内容の再吟味
- 第10回 論文の構成の検討
- 第11回 論文原稿の執筆
- 第12回 論文原稿の推敲
- 第13回 研究成果の発表
- 第14回 研究成果の地域への還元
- 第15回 まとめと今後の課題

3 この科目の授業のねらいおよび授業内容が認定に適合する理由を書いてください。

- 1) この授業は、自然地理学的手法に基づいて、室内調査と野外調査のバランスのとれた地域調査を実施し、その結果を科学論文としてまとめるための高度な能力の育成を目指している。
- 2) この授業は、調査研究に関する演習と、教室および調査地における研究指導を行うもので、科学的な地域調査の遂行に必要な能力が身につくように設計されている。
- 3) この授業では、調査結果やその分析内容を科学論文としてまとめるのに必要な諸技法を各自の研究テーマに即して指導するので、受講生は科学論文作成に必要な能力を十分に修得できる。

4 授業に使用する教材

教科書は使用しない。研究テーマに即した文献を用いる。

5 成績評価の方法（到達目標の確認方法）

授業への取り組み状況と提出された研究成果により総合的に評価する。
（授業への取り組み 50%，研究成果 50%）

6 その他、上記以外に特に適合する理由があれば書いてください。

備考（記入に際し、スペースが不足する場合は枠を拡張または複数枚でもかまいません。）